

地域のネットワーク形成

木下 久美子

(高山赤十字病院図書室)

近畿病院図書室協議会の設立15周年おめでとうございます。現在の協議会に発展させるまでには、幹事を始めとする皆様の大変なご苦労があったことと思います。

当院は中部地方にあります。近隣に病院図書室の集まりがないことから、この近畿病院図書室協議会に入会いたしました。以来11年間、会員、特に近畿地区の会員の皆さんが利用者によりよい情報を提供するために研鑽を重ね、自分の図書室にない文献を提供し合い、情報交換している姿を目にして、中部地区にもこのような会ができればと願っていました。そのような中で、平成元年10月に当会の研修会を名古屋で開催していただけたことは大変嬉しい出来事でした。中部地区にも多くの病院図書室があり担当者がいること、図書室に関心を寄せている病院があることを実際に知ることができたのは大きな収穫でした。しかし、初めての研修会でもあり、参加者に図書室間のネットワークの必要性、重要性が十分には伝わらなかったのが残念でした。といいますのは、参加した病院の多くがこの協議会活動に賛同して入会してくるのを期待していたのですが、現在のところ新入会員がまだ無いからです。病院図書室の充実を考える時、図書室間の連携は不可欠であり、近い将来にはどのような形であれ、担当者の情報交換の場が生まれることを期待しています。

今後、近畿病院図書室協議会が近畿以外の多くの図書室を受け入れて組織を拡大していくのか、また今しばらくは他の地区の動きを見守るのか、私には分かりません。しかし、いずれにしてもこれまで15年間培ってきた組織運営の力を他地区でのネットワーク形成のために活かされることを、また全国の病院図書室の充実、発展のためにも活動されることを願っています。

出合いの大切さ

岡橋 郁子

(社保広島市民病院図書室)

協議会設立15周年おめでとうございます。

1976年11月、私は模範的病院図書室を見学するために東京へ出張しました。当時、当院では手狭な図書室から本が溢れ、また司書の業務も医局秘書兼務ということもあって無秩序に膨れ上がり、混乱状態にありました。それで、その打開策を求めて上京したわけです。

先ず、聖路加国際病院医学図書室を訪ねました。そこで足立氏に出会ったのです。彼女から近畿に「協議会」が結成されたこと、自分達も関東を中心にして「病図研」を結成することを知らされました。

このことは、正に私が渴望していた打開策そのものでした。早速両会に参加しました。会への参加は同じ仕事をする仲間との出合い、継続的な研修・見学への参加、幅広い情報交換等好機を与えてくれました。今、当図書室の発展を振り返ると、やはりこの出合いが大きな節目になっていることを確信します。1978年新図書室完成を機に、会で得たことを種々展開してまいりました。会入会以前の暗中模索9年間に比してどんなに能率的であったか、言うまでもないことです。特に協議会刊行の「医学資料の整理と利用－病院図書室マニュアル」「年次統計調査報告書」で業務の標準化が計られ、管理者の理解を得るのに大いに役だっております。

さて、当地域に病院図書室を含むネットワークを作ろうと1982年4月に協議会主催、日本医学図書館協会中四国部会後援で中国・四国地区病院図書室研修会が開催されました。予想以上に多数の参加を得て、川崎医大の湊氏は「今、種が蒔かれた。」とネットワーク形成のスタートを宣言されました。しかし、その種子は数年を経た今も一向に芽をふかないままであります。そして何も協力できないでいる自分の無力をいやが上にも知らされております。

協議会は15年を経、益々巨大な大木へと着実に